

高島及び関崎周辺地域の自然林



高島の自然林



スダジイ林の林冠

スダジイ林は山腹斜面や小高い丘に見られる群落で、林冠部ではスダジイ、タブノキが茂り、林内ではヤマモモ、クロキ、ミミズバイ、タイミンタチバナなどの樹木が各階層の優占種となって、鬱蒼とした森をつくっています。



スダジイ林の林床

樹木が茂るスダジイ林では林床に届く光量が少なく地上近くにはノシラン、ヤブコウジ、フウトウカズラ、コヤブランなど低地の常緑樹林に見られる種が生育しています。

この地域は豊後水道から瀬戸内海への入り口にあたり、雨の少ない温暖な気候と日本列島の成り立ちにかかわる中央構造線がはしるという気候的、地史的特徴をもっています。さらに、畑作や柑橘栽培、精錬鉱業などの人為的な環境も自然林の成立に影響を与えています。



コジイ群落

半島の尾根部にみられる群落で、林内にはアラカシ、モチノキ、クロキ、ナガバジャノヒゲなどが生育しています。



タブノキ群落

タブノキまたはヤブニッケイが高木層の優占種となる林で、林内にはヤブツバキ、アオキ、ノシラン、ホソバカナワラビなどが生育しています。



オオバヤシャブシ群落

かつて伐採したところや裸地状態だったところにオオバヤシャブシを植栽した群落ですが、時間の経過とともに自然状態への回復も見られます。



ウバメガシ群落

半島南側海岸がけ地に見られ、ウバメガシのほか、ヒトツバ、コバノタツナミ、シャリンバイなどが生育しています。



ハマビワ群落

海岸の傾斜地に見られる群落で、林内にはツワブキ、オニヤブソテツなどが生育するが、ハマビワが密生すると林床植物は少なくなります。



マサキートベラ群落

海岸に一般的な群落でクロマツ、マサキ、アキグミ、クサスギカズラなどが数状態で生育しています。